府民啓発

参考資料２

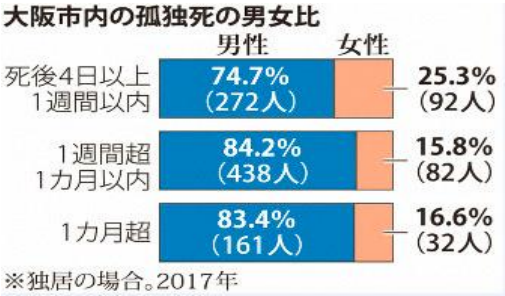
府政だより（2019年11月号）

・特集記事を新聞折り込みにて府内全戸配付[２６０万部]

毎日新聞（2019年11月12日朝刊）抜粋

孤独死1100人　８割男性　　大阪市・2017年　地域と関係薄く

2017年に大阪市内で発見された孤独死は1101人に上り、うち8割に相当する871人が1人暮らしの男性だったことが大阪府監察医事務所による初の実態調査で明らかになった。死後１週間以上経過してから住宅の管理人に発見されるケースも多く、同事務所は「男性は女性より地域とのつながりが薄いためと考えられる。地域に参画しやすくする仕組みが必要だ」と指摘している。



(中略)

今回の調査では、自宅で発見され、死亡から発見まで4日以上経過したケースを孤独死と定義。17年に扱った4551人のうち、1101人を孤独死と判断した。このうち905人は死亡から1カ月以内に発見されたが、1カ月を超えた人も196人に上り、最長で1年4カ月後に発見された人もいたという。事件性が疑われない限り、孤独死については警察も発表せず、報道されるケースはまれだが、大阪市内だけで1日あたり3人の孤独死が見つかっている計算になる。

府の担当者は実態調査の実施について、「孤独死の現状を発信することで、市町村の施策を充実させる機会になれば」と話し、今後も継続する方針だ。「自分や家族のことに置き換えて考えてもらい、近くに一人暮らしの高齢者がいたら声掛けしてほしい」と呼び掛けている。